

西宮文化協会

会報

令和六年七月
通巻六七六号

- (1) 八月行事文化講演会 (西尾嘉美)
- (2) 西宮の歳時記④ (同右)
- (3) 深江文化村―阪神間モダニズムの一翼 (上) (二宮健)
- (4) 同右 (岡本三千代)
- (5) 西宮万葉風景だより⑧ (江壽健一郎)
- (6) 四月行事記念講演会「甲子園百年の歴史」 (同右)
- (7) 同右・(天関)
- (8)

●講師略歴

- ・一九九五年 関西学院大学文学部史学科卒業
- ・二〇一三年～二〇一七年 関西学院大学教育学部准教授
- ・二〇一八年～現在 大阪市史料調査会調査員
- ・現在、関西大学・大阪工業大学・園田学園女子大学の非常勤講師を兼任

【主要著書】『歴史のなかの上ヶ原 西宮市上ヶ原、古墳から震災まで』(関西学院大学出版会二〇一六年)

●講演内容

太平洋戦争では航空機が大変重要な役割を果たしました。戦時下の西宮地域は、この航空機の生産や航空兵の錬成に大きく関わっています。

鳴尾には川西航空機の本社・製作所・飛行場があり、戦闘機「紫電」「紫電改」等が生産されました。また、上ヶ原の関西学院には西宮海軍航空隊が置かれ、航空兵になるための基礎的訓練が実施されました。本講演では、戦時下における西宮地域の状況について、おもに航空機との関わりを中心に紹介します。



「雄飛の碑」と神風神社

八月行事 文化講演会

「戦時下の西宮地域―航空機との関わりを中心に―」

一、日時 八月十一日(日) 十時～十一時半

※午前中の開催です。開始時刻にご注意下さい。

一、会場 西宮神社会館

一、演題 「戦時下の西宮地域
―航空機との関わりを中心に―」

―航空機との関わりを中心に―

一、講師 大阪市史料調査会調査員 中村直人 氏

一、定員 五十名

一、申込み 西宮文化協会事務局 (西宮神社内)

電話 0798・33・0321

に広大な土地を購入済みだったからだそうです。兵庫県は、武庫川の治水工事の一環として、支流の枝川と申川さるがわを廃川にします。大正十一年（一九二二）に、その川の跡地を購入したのが阪神電鉄。絶妙のタイミングで、新球場の用地は確保されていたのです。」

「収容総人員八万人の大球場、甲子園球場ができたあとも、阪神電鉄はその川の跡地に、つぎつぎとスポーツやレジャーの施設をつくったといえます。球場には、昭和九年（一九三四）、ペーブルースらのアメリカチームが来日して全日本と対戦。これがきっかけでプロ野球創設の機運が高まり、昭和十年（一九三五）、大阪タイガース（現阪神タイガース）が創設されたそうです。ところが戦争が激化します。」

「甲子園球場は、金属類供出で大屋根（大鉄傘）が取り外され、焼夷弾攻撃も受けて一塁側のアルプススタンド階下が全焼します。戦後は米軍が接收。暗い時代が続きます。ようやく昭和二十二年（一九四七）、野球大会が再開。昭和二十六年（一九五一）には、大屋根（銀傘）も復活します。そして平成二十二年（二〇一〇）、大リニューアル工事の完成で、現在のような甲子園の姿になったのです」と、百年の歴史を振り返って、お聞きとなった。

今回の講演では「日本人はからだが小さい。野球で日本人

の体位向上ができれば」と三崎さんは考えたそうです。」との三崎省三さんの紹介が特に印象に残った。貴重な機会をご用意いただいた西宮文化協会事務局にひたすら感謝である。

予 告

九月行事 観月祭・月見の宴

日時 九月十七日（火）

観月祭 十八時～

月見の宴 十九時～

*月見の宴は有料となります。

詳細は次号にてご案内致します。



西宮文化協会 会報 第六七六号

発行日 令和六年七月一日

発行者 西宮文化協会 会長 吉井良昭

〒六六二〇九七四 西宮市社家町一の十七 西宮神社内

電話 0798・33・0321

FAX 0798・33・5355

E-mail: koho@nishinomiya-ebisu.com

印刷所

株式会社 旭プリント